

## 週刊 タバコの正体

3学期が終了しました。高校生活のうちの1年間が終わったわけですが、現在の心境はいかがでしょう。そんなに特別な思いがある人は少ないかも知れませんが、君達が受け取った成績表には、1年間の自分の行動や努力の結果が現れていると思って、ちゃんと見て下さい。そして謙虚な気持ちでその内容を受け止めて下さい。「進級できたら、それでいい」なんて思わず、何人もの先生が、君達の事を1年間見てくれていたからこそ、ちゃんと評価してもらえるのですから、感謝しながら自分の事を見つめ直して下さい。

さて、タバコの正体も1年かけて43話を読んでもらいました。「えっ、そんなに読んだかなあ」って感じると思います。全てを集中して読んでいる人ばかりではないでしょうし、読んだとしても記憶に残っている内容は限られてくるのは当然ですから。もっとも「タバコなんて、全く興味はないし一生吸うつもりはない」と思っている人が多くなっているのです、なおさらでしょう。

しかし反面、すでに“ニコチン依存症”にかかっている生徒は何人もいます。彼ら彼女たちは一日の学校生活のなかで、ニコチン切れによるイライラに耐えかねて隠れて吸った灰や吸いがらをトイレに捨てているのです。その際あたり一面に不愉快なタバコの煙やニオイを撒き散らしています。姿を隠してゴミを巻き散らかしているようなものです。

不幸にしてニコチン依存症になってしまった人たちは、我慢したくてもできないので校内や登下校の際、喫煙を発見指導されるケースはなくなりません。そうすると喫煙した生徒は、何日間かの謹慎を命じられ、通常の授業は受けられません。「未成年の喫煙は法律違反だから、以後こんな事をしないように謹慎期間中にしっかり反省しなさい」ということなのです。

ところが、謹慎期間中に反省はできても“禁煙”することはかなり難しいのが現実です。それが“ニコチン依存症”ですから。だから、喫煙で謹慎を受けた生徒たちの多くは、再度喫煙を発見される場合が少なくありません。それが度重なると謹慎期間が長くなり、進級や卒業に影響を及ぼす事例もまた少なくないのです。

今、「タバコなんて、全く興味はないし一生吸うつもりはない」という人には、こんな心配は無用です。でも、もしあなたにニコチン依存症の友達がいるなら、ぜひ禁煙することを勧めてサポートしてあげて下さい。まわりの人が協力すれば、その友達をタバコから救えるかも知れません。そうすれば来年の今頃、いや今後も「タバコのせいで、進級できなかった」なんていう悲劇はなくなるでしょう。

産業デザイン科 奥田 恭久